

はっけん



2024年

11月

九州手話サークル連絡協議会 [URL:http://www.kyushuren.org/](http://www.kyushuren.org/)

仲間のつどいに参加しました

佐賀

テーマは「次世代のきこえない子どもたちに繋げていくために」

講師は全日本ろうあ連盟 常任理事事務局長 久松三二氏。参加者は60名くらい。青年、女性、高齢、合同研修の為、参加者の年齢が幅広かったです。

講義ではSDGsをわかりやすく話して頂きました。印象に残ったのは旧優性保護法について、解決に向けてもっと早く取り組むべきだったと言われていたこと。高福祉の北欧の法律を参考にしていたことから安心し切っていたそうです。



質問が数名あった後、後半の討議に移りました。1グループは7~8人。私のグループでは聞こえない子どもについて幅広く話しました。

保護者、人工内耳、ろう学校、手話言語、様々なテーマが出てきて時間が足りませんでした。

聞こえない子どもの人生が偶然により左右されることが無いよう、法の整備や支援のあり方を整える努力が求められていると

感じました。とても有意義な時間を過ごせました。

(佐賀県 高倉尊広)

なかまの集いに参加して

講演では、過去に行われたろうあ運動が何故行われたのか、その背景について丁寧に説明していただきました。私自身勉強不足で初めて聞く内容もありとても勉強になりました。

また、きこえない方・子どもが生活していくにはまだまだ障壁が多く、今後もその障壁を取り除くための運動が必要かと思っています。その際に通訳者としてその活動をサポートできるよう、



通訳技術の向上はもちろんですが、様々な知識を学んでいく必要があると感じました。また、討議では各県のろう学校の生徒数に関することや小児の人工内耳についての話題等について話し合いました。

私は現在言語聴覚士として耳鼻科で勤めています。

働く中で、人工内耳についての情報提供が多く、手話についての情報は少ない傾向にあると感じます。ろうあ運動の中で手話の必要性を訴えるだけでなく、医学的な立場からも手話の必要性について訴えることのできる人が必要だと思います。私がそのような人となれるよう、今後より一層励んでいきたいです。
(佐賀県:吉村義誠)



第51回全九州手話通訳者研修会

福岡

第一講座

日本初の手話サークルである手話学習会「みみずく」が誕生したことをきっかけに、もともと聞こえない人との関わりのある人だけが担っていた手話通訳の役割が、手話を学びたいと思ひ講習を受けた人にも広がっていき、今では専門的な知識と技量が必要とされるものとなり、様々な制度化につながってきた歴史を紐解きながら、解決されたこと、未だ解決されないこと、時代の変化に伴い新たに生じた課題など多岐に渡るお話しでした。

その中に、これからの手話通訳は、耳の聞こえない人のための「障害福祉サービス」ではなく、一人の市民に提供される「行政サービス」に変えていく必要がある。そのためには、手話通訳者の雇用だけではなく、手話のできる職員の雇用・拡大を進める必要があるといった提言がありました。

正直なところ、手話通訳者の正規雇用を諦める方向性の提案にも聞こえ、ショックでした。勇気を出して質問したところ、小出さんのお答えは、これからの手話通訳者の役割の中に手話のできる職員たちをまとめる新しい役割が加わるのだと理解すればよいとのことでした。

手話ができることがうれしくて、自分ですべて伝えようと意気込む職員が出てくるのが想定される中、「手話ができること」と「手話通訳が



できること」との違い、手話通訳は言語通訳としての専門職であることを啓発できるように、自身の資質を高めなければと身の引き締まる思いがしました。



(大牟田手話の会「ありあけ」(県南地区) 赤嶺 寛徳)

全九州ろうあ者大会に参加して

二日目のアトラクションの手話落語が印象に残りました。

落語でも読み取り通訳というのでしょうか？熊本弁での通訳がワンワン亭あきたさんの落語と一体化してとても面白かったです



分科会の報告の中で「ろう者の手話には映像が見える」とありましたが、まさしくワンワン亭あきたさんの落語はその通りでした。

落語が好きで寄席通いに凝った時期がありました。

一人何役も演じる落語は映像が見えるものではありませんが、手話の醸し出す表現力にお国言葉の通訳とが相まって愛嬌のある落語となり「また観たい」と強く思いました。

かつて熊本で暮らした頃の交通センターは桜町バスターミナルというキレイな商業施設に変わり、直結した熊本城ホールも立派で、そこで開催された大会。

会場全体に再会を喜ぶお喋りの(手話の)花が咲いて… ああ、これがよく言われる静かで賑やかな空間なのだなと。

次回は大分で開催、また参加したいと思います。

(北九州手話の会 新虹の会 小倉南支部 蒲田貴子)



大分

第72回全九州ろうあ者大会に参加して

第2講座(九手連担当) / テーマ「ろうあ者の手話に学ぶ」

講演「目からウロコの手話～ろうあ者の手話に学ぶ」長谷川達也氏
グループワーク「隣の例会を覗いてみよう」福岡県手連

ろうあ者14名と健聴者140名、計154名の受講者がありました。

第一部の長谷川氏の講演は、聞こえない人同士が会話している時は映像が見えている、聞こえる人が手話をする時映像が見えないので、ろうあ者は何をあらわしているんだろうと考えて読み取っているという内容でした。

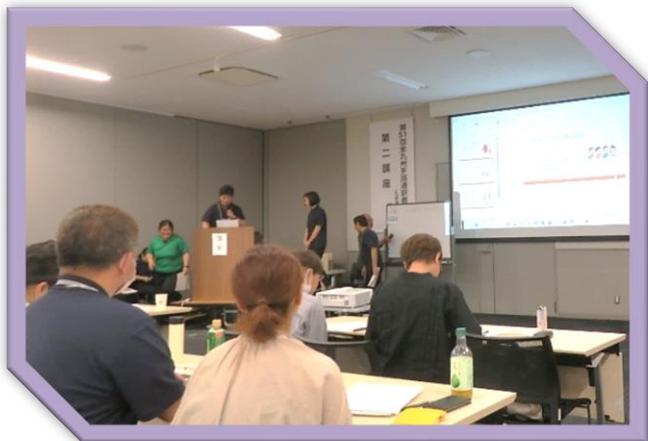
例えば、「コーヒーとお茶、どちらが好きですか？」と聞いた時に、視線をどこに持っていかで答え方が変わってくる。同じ手話であっても、カップや湯呑を模した手先に視線を持ってくるか、相手の方を見て手話をするかで、聞こえない人の読み取りが違ってくること、それを映像化し



たDVDを使用して説明していただきました。とても興味深かったです。

それと同じように、聞こえない人が話をする時に目線を変える、あるいは瞬きをすることによって話し、つまり映像の変化や場面転換をしていることなど、聞こえない人は映像が見えるという、演題のとおり、まさに「目からウロコ」の講演でした。

次の第二部では、3つの地域のサークル例会の様子を実践も交えて紹介されました。一般



的な手話伝言ゲームではなく、お題があって、それを「絵」→「指文字」→「空書」→「口話」→「手話」で伝えていくゲームです。担当者が、「くまモン」や「馬刺し」をお題にこのゲームをやってくれました。順番も替えたりしました。また、手話や口形を使ったらダメ、時間・回数を決めておく方法での伝言ゲームもあるそうです。

そのほかの例会活動紹介で、各県のロゴ・県章を使い、どこの県のロゴマークなのか、そして

その県の有名な場所や品物などを取り上げて話を膨らませていくゲームの紹介があり、最後に災害をテーマに避難所を想定して要配慮者、支援者、観察者を役割分担して「どうする？現状把握」と題してのロールプレイがありました。おたすけてぬぐいを使って。

どれも我が地域、サークルに持ち帰って例会等に取り入れてみたいと感じました。

(大分県 中村 義成(サークルはぐるま夜の部))



第72回全九州ろうあ者大会 in くまもと 参加レポート

熊本



全九州大会式典は、大雨の降る生憎の天候でしたが、予定通り熊本城ホールメインホールにて肅々と、冒頭に故松永朗前理事長に黙禱を捧げ、天国から見守られながら幕を開けました。主催者挨拶の後、感謝状が三名の方に贈られ、代表して松永朗氏のご遺族(ご息女)より謝辞が述べられました。来賓祝辞、来賓紹介の後、休憩をはさみ議事へと進みました。議事の内容は、昨年度事業報告、大会宣言、大会決議、前

日の研修分科会・講座の報告などでした。

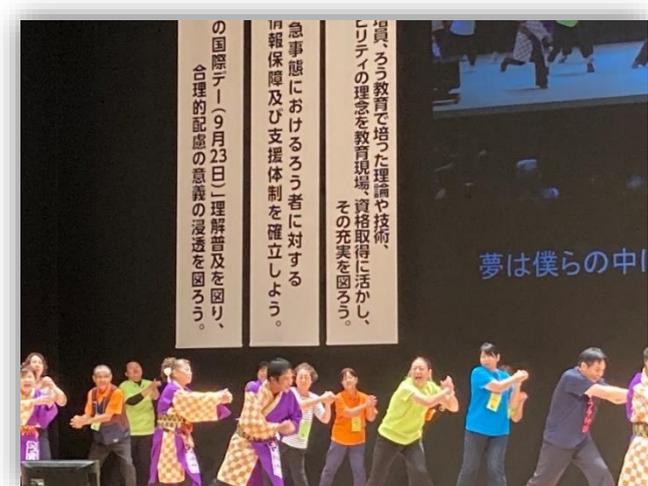
スタッフの多くは式典会場には入れませんでした。ロビーにも大きなモニターが設置してあり、式典の雰囲気を感じることが出来ました。

午後の第2部アトラクションは、ワンワン亭あきた(穂田誠也)さんの手話落語「しわい屋」でスタートしました。30数年ぶりの披露ということでしたが、豊かな手話表現に引き込まれ会場は大爆笑。手話サークル玉名わかぎの中尾さんの肥後弁での読み取り通訳も絶妙でした。

次は「珍手話百景パートⅡ～九州の手話方言は地域によってちがうの?～」以前の大会で好評につき今回パートⅡが実現。お題を九州各県代表が手話表現されました。「同じ」「似ている」ものもあれば、「へえ」という違う表現もあり。また同じ県の方が助っ人で登壇し表現されたりして、会場のあちらこちらで手話が飛び交いました。



そしてアトラクションのラストは YOSAKOI 演舞。「うき神輿」さんのエネルギッシュな舞に圧倒されました。最後の曲「元気 forJAPAN」は、東日本大震災の時にできた復興ソングで、全国の YOSAKOI イベントで踊られている曲です。以前より、手話サークル宇城わかぎ・ろう協県中央支部は共に、宇城の耳の日ふれあいや、「うき神輿」さん主催の復興祭に参加するなど交流を続けています。今回も「うき神輿」さんの出演が決まり、「元気 forJAPAN」の練習を重ね、また



練習用 DVD 配布もあり各自自主練にも励み、本番に備えました。

当日はサークル会員がアトラクションの通訳を担当していたので、(通常の通訳ではやりませんが)曲の合間の MC は通訳がマイクを手渡しして MC の表現通訳をし、マイクを受け取り下がり、舞台袖には別のサークル会員がスタンバイし、アイコンタクトをとり次の曲出しをする。。。という連携プレーもこなしました。うき神輿さんのステージをよく知る宇城わかぎだからこそ出来た連携で、これまでにない一体感を感じることが出来ました。

また、宇城わかぎだけでなく、県わかぎやろう協、他参加された皆さんも、ステージに上がってくれたり、座席に座ったまま踊ってくれました。さらに、客席後方では立ち上がって踊ってくれた人もたくさんいて、会場中が盛り上がりました。ステージ上から見えた景色は、会場の皆が笑顔で、踊って、ステージに向かって手を振ってくれ、熊本城ホールが 1 つになりました。とても楽しく嬉しい時間となりました。後で大変好評だったという話を聞き、大会を盛り上げる事が出来て本当に良かったと思いました。

そしてフィナーレは、大会会長と地元実行委員長よりお礼の挨拶があり、引き継ぎ式で大会旗を次年度開催の大分県へ無事引き継ぎました。大分からは、「おいしい物、楽しい所がたくさんあります。待ってま〜す」とビデオメッセージがありました。

最後に地元実行委員長の熊本県ろう者福祉協会松本理事長の閉会の挨拶をもって閉幕となりました。参加された皆様お疲れさまでした。

(宇城わかぎ一同)



鹿児島

第72回全九州ろうあ者大会



～第二分科会～

9月21日 土曜日 熊本城ホールでの全九州ろうあ者大会に行ってきました。本当に久々のイベント参加で…手話を始めた 20 代の頃は頻繁に出かけていましたが、色々事情が重なりご無沙汰していました。

午前中は、小林泉氏による「SDGs 誰ひとり取り残さない共生社会の実現を目指して」というテーマで様々な事例を交えてのお話でした。



例えば、貧困や水質の問題など、発展途上の国の人たちは、経済的に貧しいというだけでなく、生活にも苦勞があります。私たちは、あたり前に水道の蛇口をひねればあたり前に飲み水を口にすることが出来ますが、国によってはそうではありません。そこにも格差が生まれているのです。困っている国の人々が、減りだれもが苦勞することなくあたり前に水を手に入れることができる世界の訪れこそが、「誰ひとり取り残

さない社会」の実現こそが、そういう格差を生まないことではないでしょうか。

また午後は、長谷川達也氏による「目からウロコの手話」というテーマでのお話でした。例えば簡単な文章だけどその文章を表す時、ろう者と健聴者では違いがあることが分かりました。

「健聴者は、手話を単語で伝えようとするけど、ろう者はその単語を目の前にイメージしてる。だから手は見えてない。コーヒーといえは、コーヒーカップが、お茶といえはお茶が目の前にあるんです。全ての人ができる訳ではないけど、みなさんもトライしてみてください」とまさに目からウロコのお話でした。

今回は、一緒に行ってくれる仲間が大勢だったので、便乗して行くことが出来ました。分科会は、ろう者の本音が聞けたり、通訳している側の"あるある話"、手話サークルの定例会ではどんなことしてる?など、楽しい定例会にするためのいろんな工夫が見れました。

うちの手話サークルでもやってみようと思いました。

仲間 5 人の珍道中は…とにかく皆んなずーと喋ってました。「タクシーの運転手さん大丈夫？」と何度も思いました。私は車椅子を利用している関係で、たまに嫌な顔されたりすることあるのですが、今回のタクシー運転手の方は行きも帰りもとても気さくて、親切な方だったのでとても助かりました。私と同行してくれた皆さん、きっと疲れたことでしょう。お疲れ様でした。ありがとうございます。

(出水手話サークル まなづる 内菌 剛)

第 3 分科会【 福祉 】 参加者 ろう者45名 聴者39名

「テーマ「SDGs」「地域で生きる 拠点を創る」 持続可能な社会に向けて」

昨年につき 小林 泉氏の「地域で生きる 拠点を創る」講演の後、九州管内でろう者の地域生活支援の拠点を立ち上げた例を5名の方が発表してくれた。

どの施設も「ろう者が集える場所が欲しい!!」という声から、市議、県社会福祉会、行政を巻き込んで、地域にある空き家・施設を利用して立ち上げ、ろう者の憩いの場・生きがいの場になっていることが報告されたが、当事者団体が経営主体となって事業をやっている、施設・事業所はまだまだ少ない。

聴覚障害者向け老人ホームは全国で13施設、九州管内では福岡県に1か所のみ、視覚障害者向けは全国で80施設と、高齢ろう者施設、ろう重複施設は少ないのがわかる。

今ある社会資源を利用し、高齢ろう者、ろう重複障害者の生きがいの場・暮らしの場を設立していくことが、ろう者の権利を守ることになる。



それには、ろう者の声を聞き、ろう者が主体で、ろう者抜きで決めないで、手話サークル・地域団体・行政関係者一緒に取り組んでいくことが大切と結ばれた。

小さな市の少ない人数のろう協会・手話サークル、高齢化は否めない。自分たちにできることは何か？みんなで考えていきたい。

(指宿手話サークル なの花 生見 登喜子)

今回初めてこのような大会に参加しました。

いつもは小さいコミュニティの中にいるため、大勢の人があちこちで手話で会話されているのを目の当たりにして、感動すら覚えました。

講座では、「映像と視線」という新たな学びもあり、アトラクションの「手話落語」も初めての鑑賞。各県の手話の違いも大変興味深いものでした。何もかもが初めての経験で、多くの刺激を受けた大会となりました。ぜひまた参加したいと思います。

(手話サークルてて 森 初代)



第72回全九州ろうあ者大会及び研修会
第51回全九州手話通訳者研修会

長崎

共通研修会 講演「SDGs 誰一人取り残さない 共生社会の実現をめざして」

講師 一般財団法人全日本ろうあ連盟福祉労働委員会副委員長 小林泉氏（参加者538名）

最初にユニセフが制作した、6分の動画を見ました。地球環境や世界の人口の変化、格差、貧困、未来は必要なことが満たされた社会になっているか、そんな問題意識を投げかけた動画

でした。その後小林氏の自己紹介、そして「420日」この数字は何ですか？私もですが、会場の皆さんもわからない人が多かったようです。デフリンピックの開会までの日数。こんな方法でPRをされました。上手いな。

その後もみんなに数字を見せながらクイズ形式で進められ楽しく学習ができました。例えば世界で1日200円で暮らす人は？①100人、②1000人③10000人と3択クイズ。答えは①。他にも読み書きが出来ない大人の

数は？水道水がそのまま飲める国は？など、知らず知らずのうちに知識が増えていき、たくさんの学びがありました。SDGsはともすれば環境問題に目が行きがちですが、貧困、飢餓、教育、福祉など17の目標があり、ろうあ連盟もいろんな分野で目標を提示されていること知りました。積極的に一人一人が意識を変えて取り組むことが地域を変え、国を変え世界につながるのだと感じました。

（長与手話サークル 富永 君代）

第二分科会「スポーツ」

今回、地元開催以外の九州大会に初めて参加しました。

熊本までは遠いかなと思っていましたが、新幹線で居眠りする余裕もないくらいすぐでした。（つまりみなさま、長崎までもすぐです。みなさまのお越しをお待ちしております。）

スタッフのみなさまの丁寧でわかりやすい案内と活気にはとても感銘を受けました。もう、デフリンピックのボランティアも熊本のみなさまにお任せしたいくらい、いや、会場までのアクセス、会場の広さ、きれいさ、空調の快適さまで考えたら、熊本でデフリンピックを開催すればいいのに！と思うくらいのおもてなし、を頂きました。

分科会は『スポーツ』に参加しました。全日本ろうあ連盟スポーツ委員長の太田陽介氏より、主に東京開催のデフリンピックについてお話を伺いました。

デフリンピックの日本開催に関する表の話、裏の話をたくさん伺えました。

デフリンピックはろうのトップレベルの大会という認識ですが、トレーニング方法やドーピング対策についての情報が不足しているとのこと。聞こえる立場からすると、「ネットに情報あ

るじゃん」と思いがちですが、聞こえない方たちにとってはそうではないのかもしれませんが。特に実際の練習や競技会場ではなおさらなのではないでしょうか。

それを痛切に感じたのが、分科会の前の共通研修での一コマでした。SDGs についての 6 分間の(「きちんと」一言一句字幕が付いている)映像が流れ始めた途端、会場の多くのろう者が手話でおしゃべりを始めました。その光景はなかなか心が痛い、忘れられそうにないものでした。

参加者同士のディスカッションの時間では、特に『ろう者からデフアスリート話を聞いたり、指導を受けたりできないか』という意見が挙がり、選手たちの纏まった情報が得られるサイトができればいいのに…といった話にもなりました。

これらの課題はろう者と聴者が力を合わせることで解消できそうにも思えます。

そもそもスポーツは言葉の壁を越えやすいようにも思います。みんなで楽しく解決できると思いますね。

わたしは手話通訳の勉強をしているのですが、その観点からの感想を一言だけ。

今回の内容はデフリンピックというイベントについてだけでなく、各競技やスポーツ全般、健康や身体に関することまでと多岐にわたっていました。そういった知識を幅広く抑えてアンテナを張っておく必要がある、「デフリンピック楽しみ～」だけではよくないなと反省しました。

最後になりますが、行きは駅から直行し、分科会終了直後に会場 1 階から高速バスで帰宅した者としては、大会資料と一緒に入っていた、くまモンキーホルダーがすごく嬉しかったです。通勤カバンにつけて大切にします。
(長崎手話サークル 池田真)



編集後記

11月に入ったというのに20度超えの日があったり肌寒かったり…体調に不安を感じる日が続く中、各県より寄稿いただき無事に発行できました。本当にありがとうございました。ぜひ九手連ホームページ URL: <http://www.kyusyuren.org/> の機関紙「はっけん」をご覧ください。また「掲示板」へ皆さまのご意見、ご感想をお寄せください。

九州手話サークル連絡協議会
発行責任者 池尻和吉
事務局長 川上順子
広報担当 福岡県 上森信義

